

# 茨城県男女共同参画社会県民意識調査報告書

概要版

平成27年3月

茨城県

## 調査の目的・方法等

### ■ 調査の目的

本調査は、男女共同参画社会の実現に向けて、県民の意識と実態等を調査・集計した結果を分析し、ウィメンズパワーアップ会議からの提言に基づき、女性が輝く社会づくりの実現に向けた施策を推進するために実施したものである。

また、「茨城県男女共同参画基本計画（第2次）いきいき いばらきハーモニープラン」の計画期間が平成27年度末で終了するため、次期計画策定のための基礎資料とする。

### ■ 調査の対象

本調査の対象者は、茨城県在住の20歳以上の男女である。抽出方法は、層化二段抽出法を用いた。県内市町村を地域別に区分し、20歳以上の人口を順に並べ替えて等間隔で抽出し、さらに、抽出した市町村の人口規模に応じて対象者数を配分し、各市町村の住民基本台帳に基づき、対象者数を等間隔に抽出（無作為抽出）した。抽出数は4,000（男性2,000、女性2,000）である。

### ■ 調査方法・回収状況

調査方法は、郵送調査法（郵送配布・郵送回収）を用い、調査期間は平成27年2月1日から2月20日までとした。

対象4,000票に対し、回収された調査票は1,111票である。無効票（すべてが無回答）は無かったため1,111票（男性501、女性581、性別不明29）を有効回答票とした。有効回収率は27.8%（男性25.1%、女性29.1%）である。

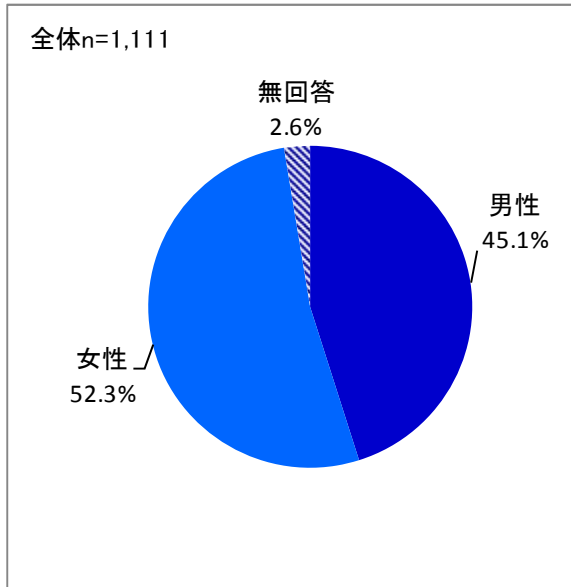
	発送数（票）	有効回答数（票）	有効回収率（%）
全体	4,000	1,111	27.8%
男性	2,000	501	25.1%
女性	2,000	581	29.1%

### ■ 本報告書を読む際の留意点

- 単純集計グラフ中の「n=〇〇」はサンプル数を表す。
- 本文グラフ及び表では「無回答」を含んで集計した。
- 単数回答の単純集計結果を表す本文グラフの中で、百分率の内訳数値は、四捨五入の結果、合計が100.0にならない場合もある。
- 複数回答の集計結果を表すグラフまたは集計表の場合、「%」は選択肢の構成比を表すものではなく、回答のあったサンプル数に対する割合を示している。
- 本文中コメントでは、およその傾向を概括するために「〇割」と「〇%」という表現を併用している。設問の選択肢を引用する場合は、省略して表現している場合もある。

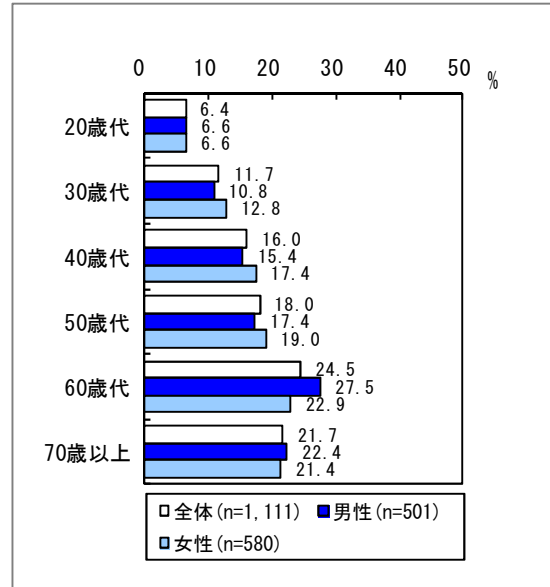
# 回答者属性

## ●性別



アンケートの回答者は、男性が4割強(45.1%)、女性が約5割(52.3%)となっている。

## ●年齢



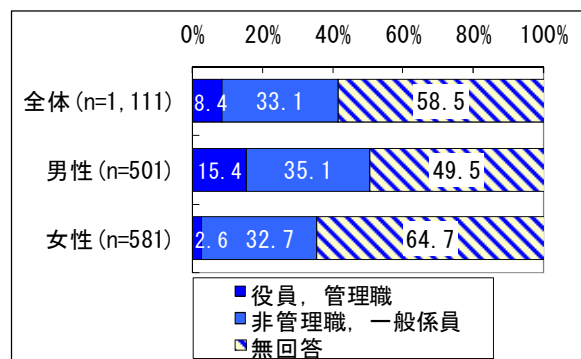
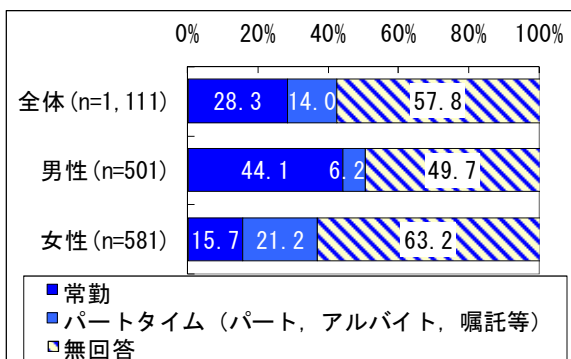
アンケートの回答者は、男女共に60歳代以上が高くなっている。

## ●職業

	農林漁業 (自営業主)	農林漁業 (家族従業者)	商工・サービス業 (自営業主)	商工・サービス業 (家族従業者)	自由業 (自営業主)	自由業 (家族従業者)	被雇用者 (専門・技術職)	被雇用者 (事務職)	被雇用者 (労務職)	専業主婦・主夫	学生	無職	無回答
全体 (n=1,111)	2.2	0.9	3.8	2.3	3.2	1.3	18.3	13.5	10.7	17.9	1.1	22.1	2.9
男性 (n=501)	3.4	0.4	5.8	2.0	3.8	1.2	25.0	12.6	13.4	0.2	0.4	30.5	1.4
女性 (n=581)	1.2	1.4	2.2	2.6	2.6	1.4	13.1	15.0	8.8	33.9	1.7	15.0	1.2

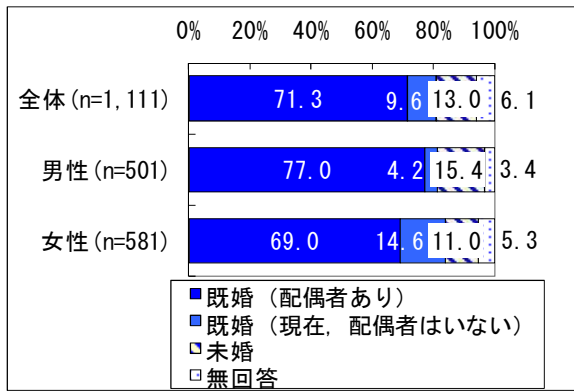
職業については、男性は「無職」(30.5%)、女性は「専業主婦」(33.9%)が高くなっている。

## ●勤務形態・職名



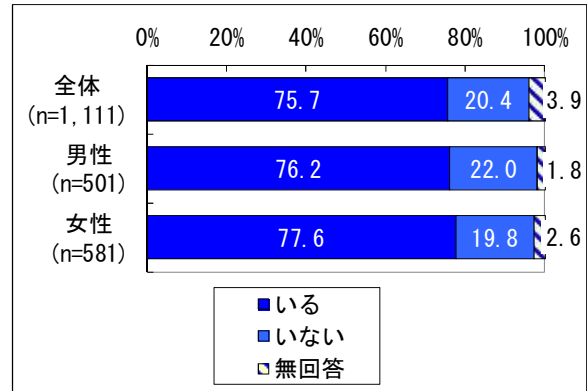
雇用者の勤務形態は「常勤」(28.3%)、職名は「非管理職, 一般係員」(33.1%)が高くなっている。

## ●結婚の状況



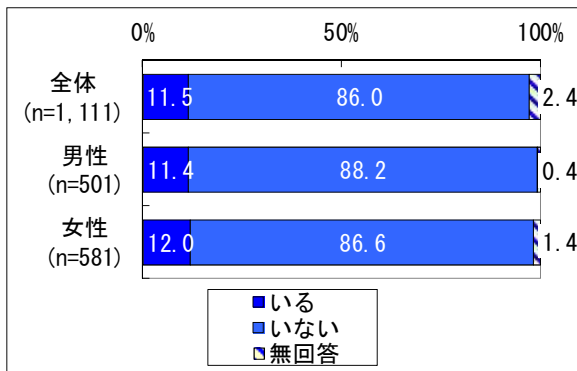
男女共に約7割以上（男性：77.0%，女性69.0%）が結婚している。

## ●子どもの有無



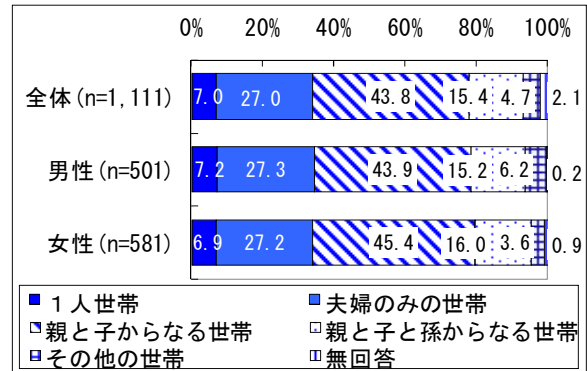
男女共に約8割（男性：76.2%，女性77.6%）に子どもがいる。

## ●介護を必要とする高齢者の有無



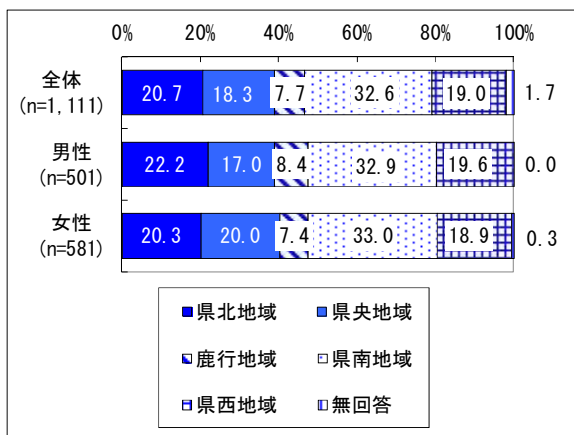
男女共に8割以上（男性：88.2%，女性86.6%）が介護を必要とする高齢者は「いない」としている。

## ●家族構成



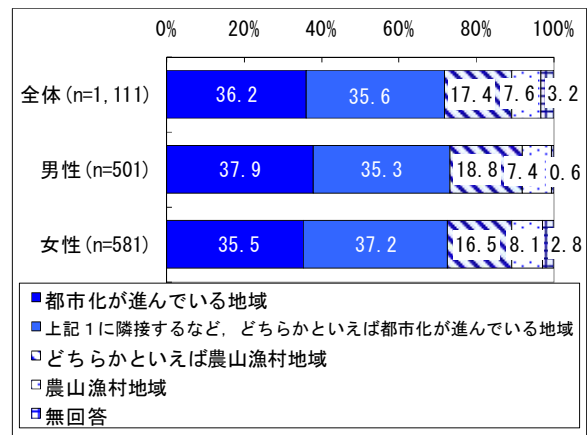
「親と子からなる世帯」（43.8%）が最も高くなっている。

## ●居住地域



居住地域は、「県南地域」が3割（32.6%）を超え、最も高くなっている。

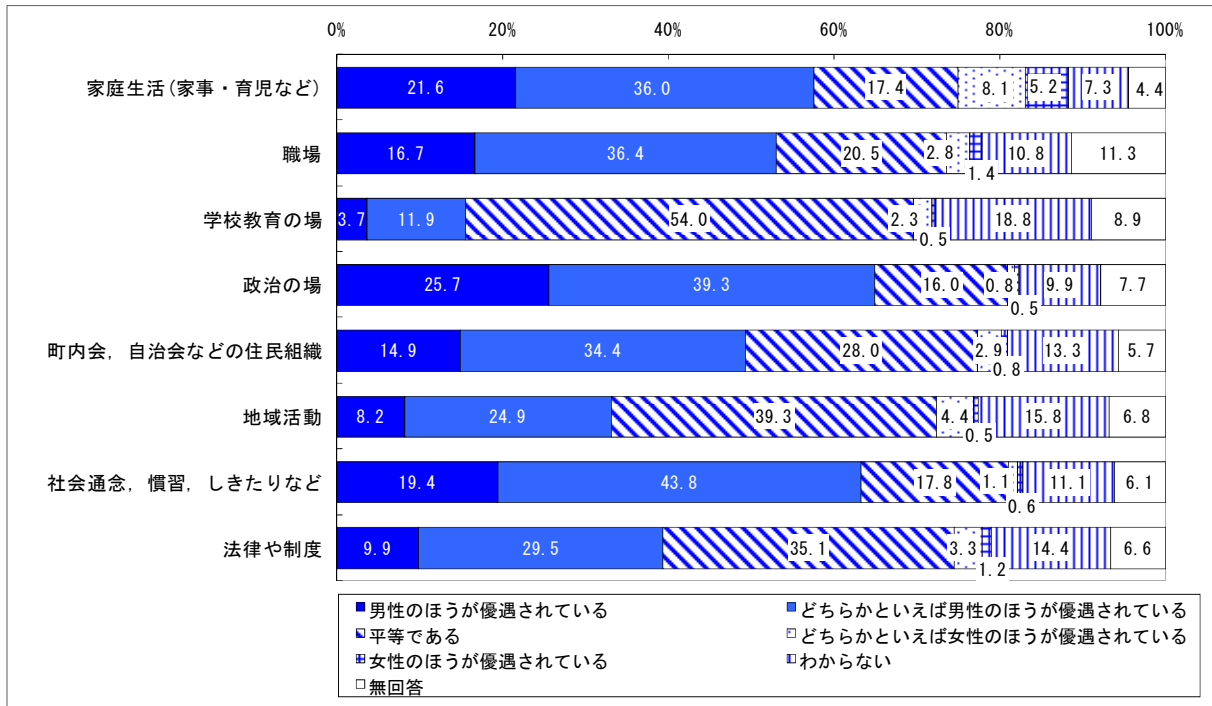
## ●都市と農村の区分



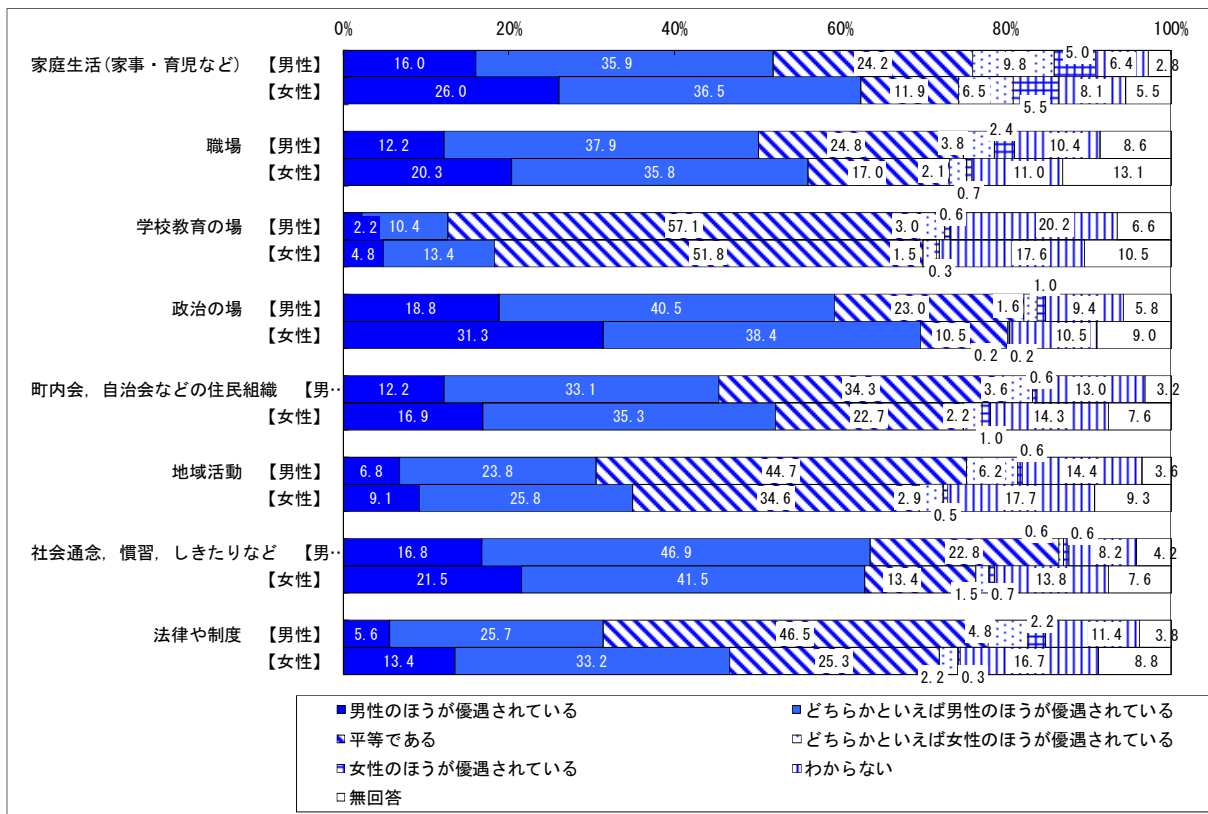
都市と農村の区別については、『都市化地域』が7割（71.8%）を超えている。

# 1 男女の地位の平等に関する意識

## ●男女の地位

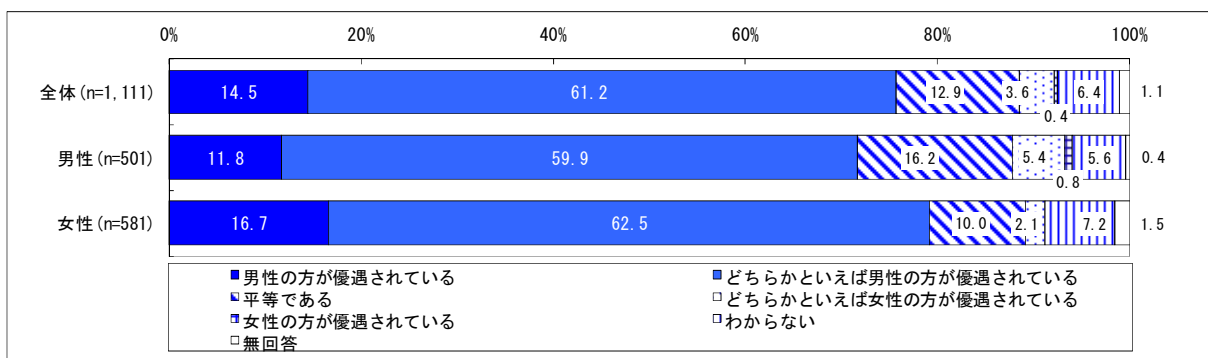


「学校教育の場」(54.0%)では平等感が高いものの、「家庭生活(家事、育児など)」(17.4%)、「政治の場」(16.0%)、「社会通念、慣習、しきたりなど」(17.8%)では依然として不平等感が強くなっている。



8つの分野と社会全体のすべてにおいて「平等である」は男性が女性を上回っている。反対に、「男性の方が優遇されている」は、「家庭生活」（男性：51.9%，女性：62.5%）、「政治の場」（男性：59.3%，女性：69.7%）、「法律や制度」（男性：31.3%，女性：46.6%）で女性が男性を10ポイント程度上回っている。

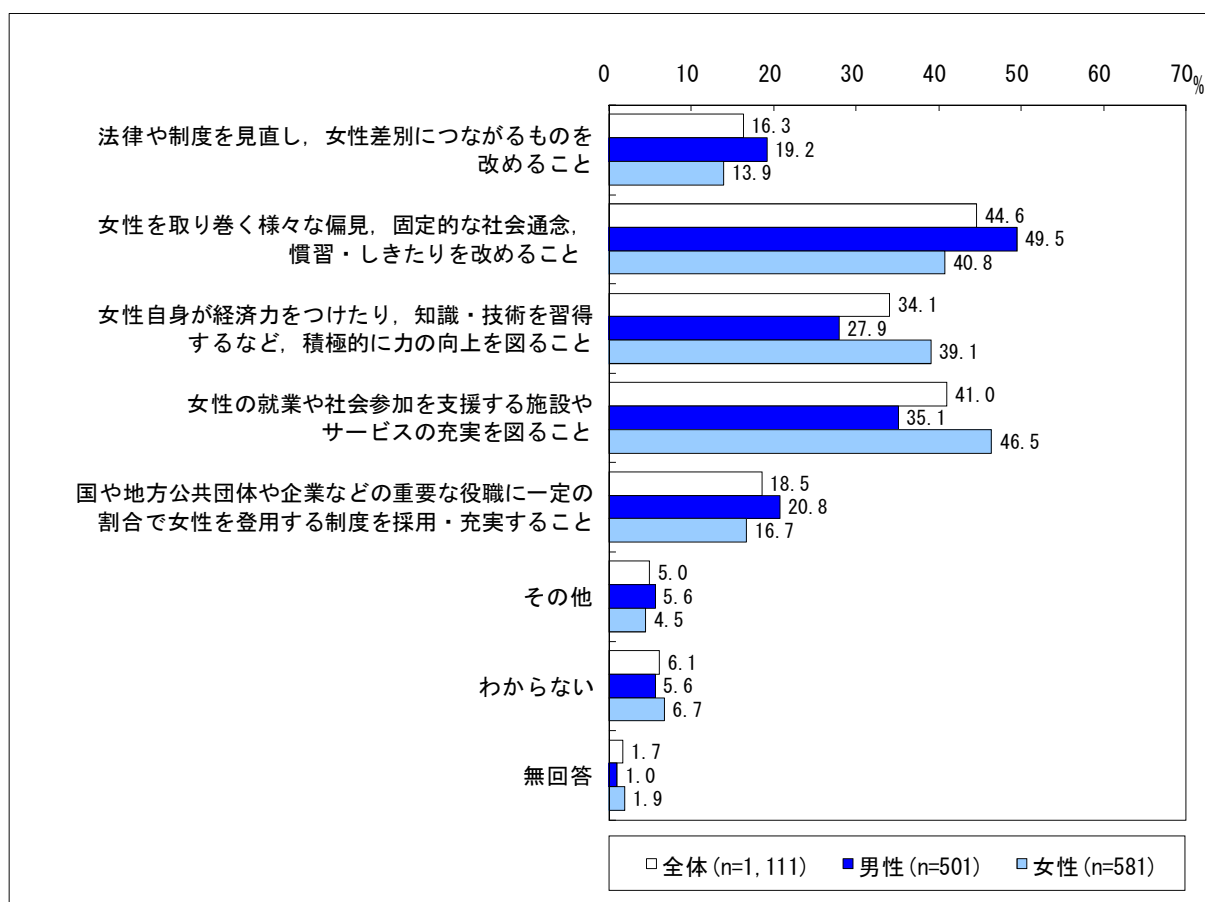
### ●社会全体で見た男女の地位



社会全体で見た男女の地位については、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた『男性の方が優遇されている』との回答が75.7%を占めている。

性別にみると、『男性の方が優遇されている』は男性が71.7%，女性が79.2%で約1割の差がある。

## ●平等になるために必要なこと

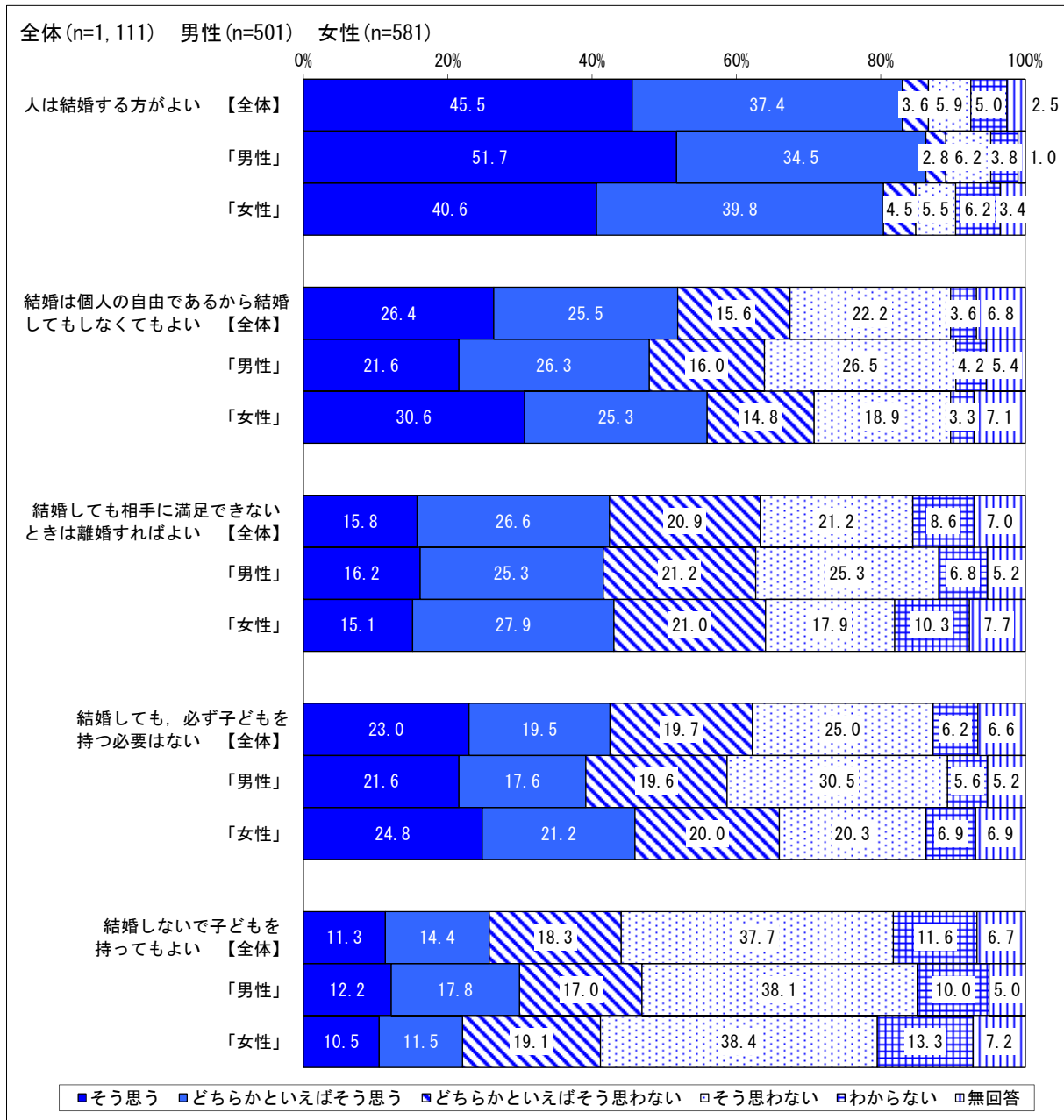


男女が平等となるために重要なことは、男性では「女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること」(49.5%)、女性では「女性の就業や社会参加を支援する施設やサービスの充実を図ること」(46.5%)がそれぞれ最も高くなっている。

また、「女性の就業や社会参加を支援する施設やサービスの充実」(男性：35.1%、女性：46.5%)や「女性自身の経済力、知識・技術の習得」(男性：27.9%、女性：39.1%)を重要とする考えは、男性よりも女性に多くなっている。

## 2 男女の生き方や家庭生活などに関する考え、役割分担等

### ●結婚や子どもを持つことへの考え



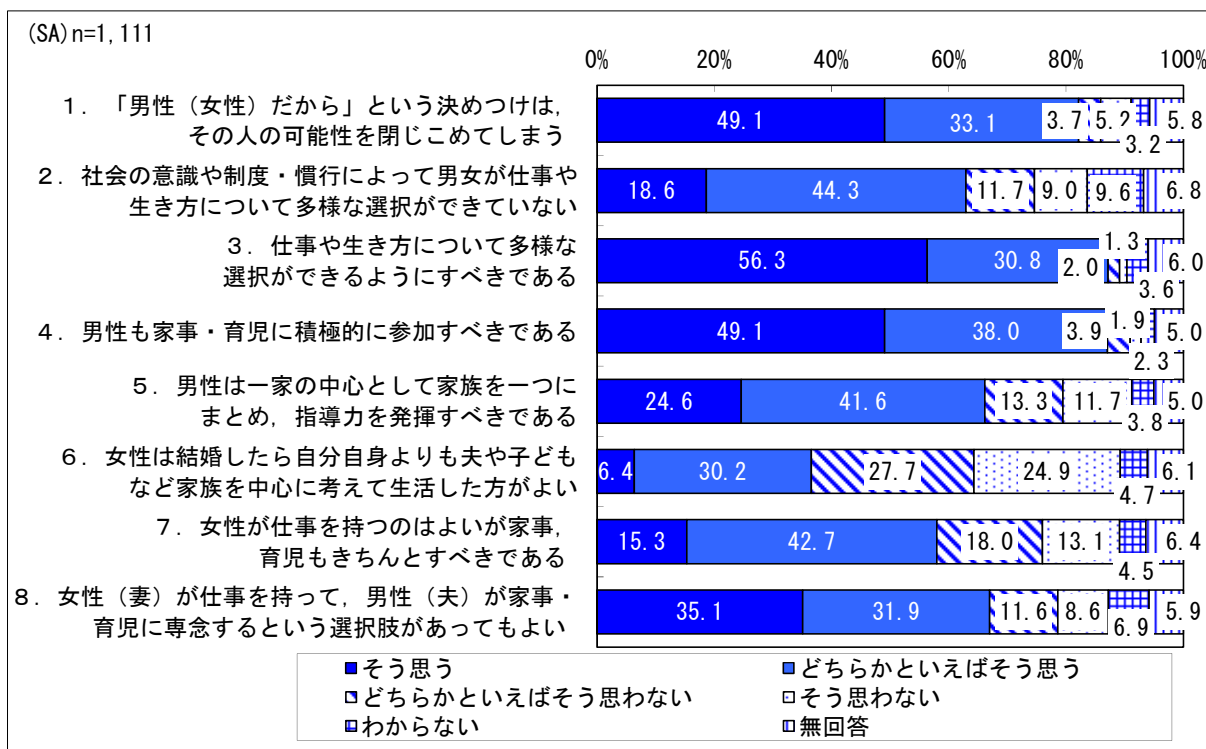
結婚や子どもを持つことへの考えについてみると、「人は結婚する方がよい」で『そう思う』（「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」の合計）が8割（全体：82.9%，男性：86.2%，女性：80.4%）を占めており性別にみると男性の割合が強い傾向にある。

「結婚は個人の自由であるから結婚してもしなくてもよい」の回答で『そう思う』が約5割（全体：51.9%，男性：47.9%，女性：55.9%），「結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい」（全体：42.4%，男性：41.5%，女性：43.0%）と「結婚しても、必ず子どもを持つ必要はない」（全体：42.5%，男性：39.2%，女性：46.0%）で『そう思う』が約4割を占めており性別にみると女性の割合が強い傾向にある。

「結婚しないで子どもを持ってもよい」で『そう思う』は約2割（全体：25.7%，男性：30.0%，女性：22.0%）を占めており性別にみると男性の割合が強い傾向にある。



## ●男女の生き方や家庭生活などに関する考え

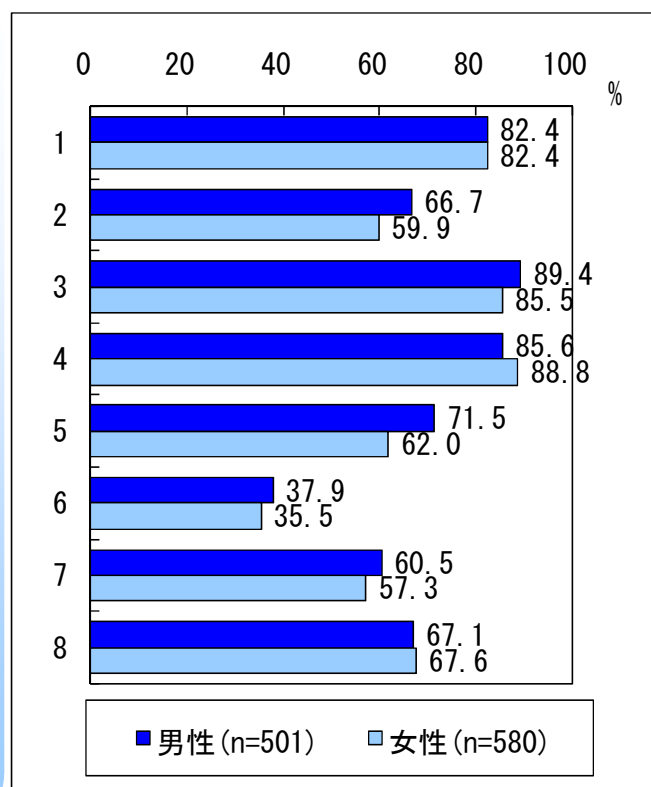


■「そう思う＋どちらかといえばそう思う」の合計（男女別）

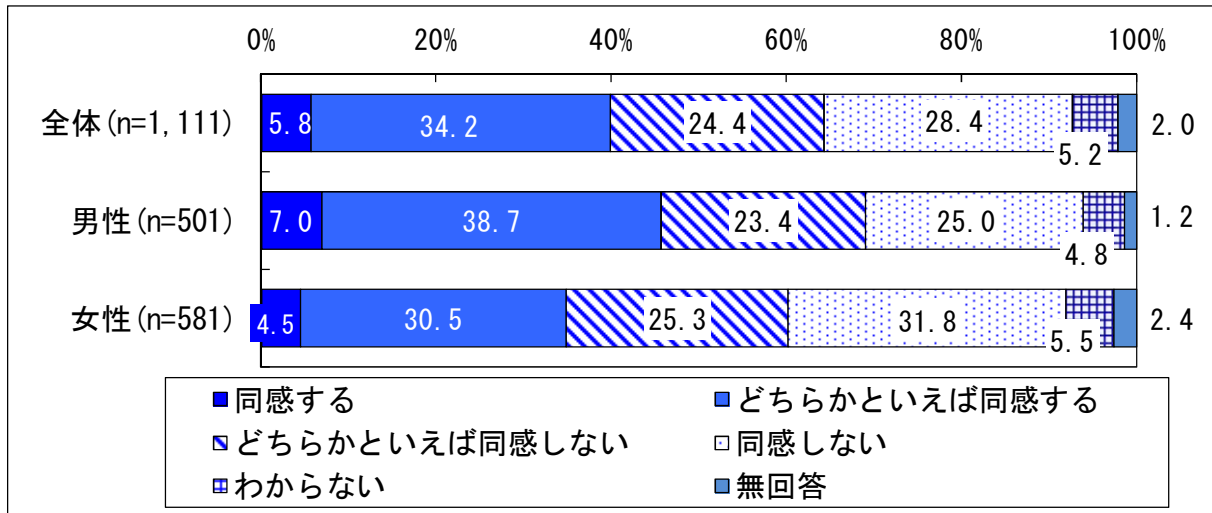
男女の生き方や家庭生活に関する考えについてみると、「『男性（女性）だから』という決めつけは、その人の可能性を閉じこめてしまう」（82.2%）、「仕事や生き方について多様な選択ができるようにすべきである」（87.1%）、「男性も家事・育児に積極的に参加すべきである」（87.1%）で『そう思う』（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）が8割を超えている。

一方、「男性は一家の中心として家族を一つにまとめ、指導力を発揮すべきである」（66.2%）や「女性が仕事を持つのはよいが家事、育児もきちんとすべきである」（58.0%）についても『そう思う』が約6割となっている。

性別にみると、全般的に女性より男性の方に性別役割分担意識がやや強い傾向にある。



●性別役割分担意識についての考え方

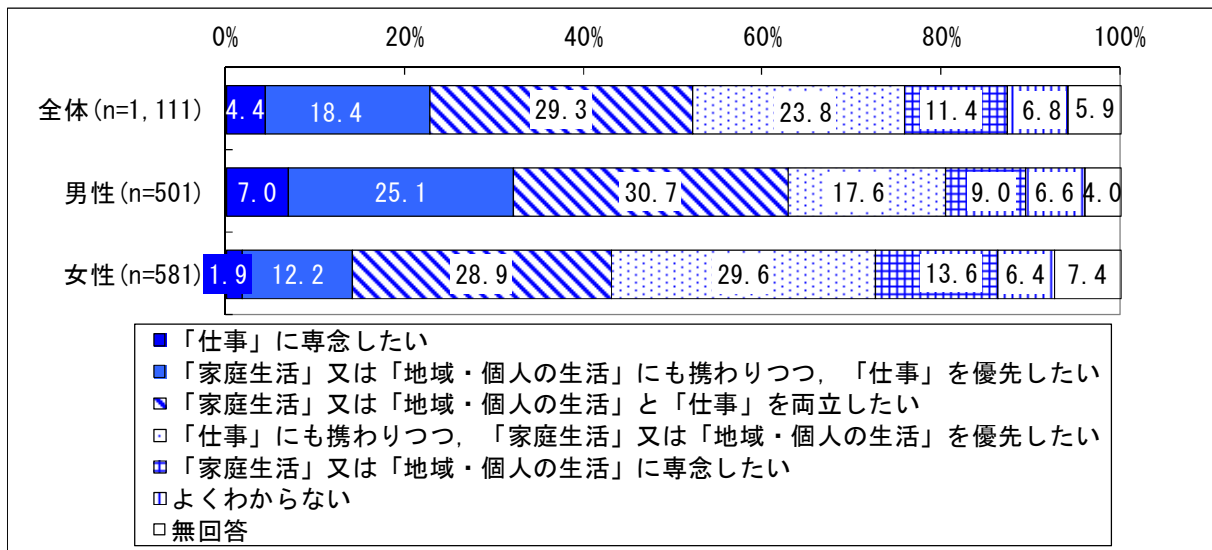


「男性は仕事，女性は家庭」という考え方については、『同意しない』（「同意しない」と「どちらかといえば同意しない」の合計）が約5割（52.8%）となっている。『同意する』（「同意する」と「どちらかといえば同意する」の合計）は女性で4割弱（35.0%）だが，男性では5割弱（45.7%）であり，約1割の差となっている。

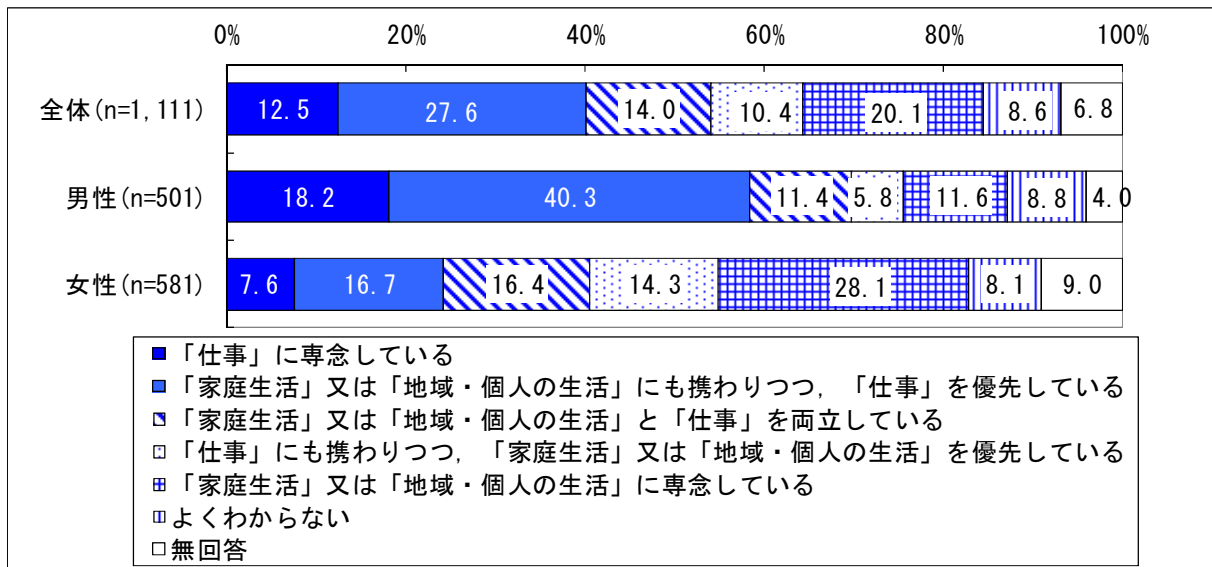
### 3 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）

#### ●仕事，家庭生活，地域・個人の生活の理想と現実

##### 《理想》



##### 《現実》

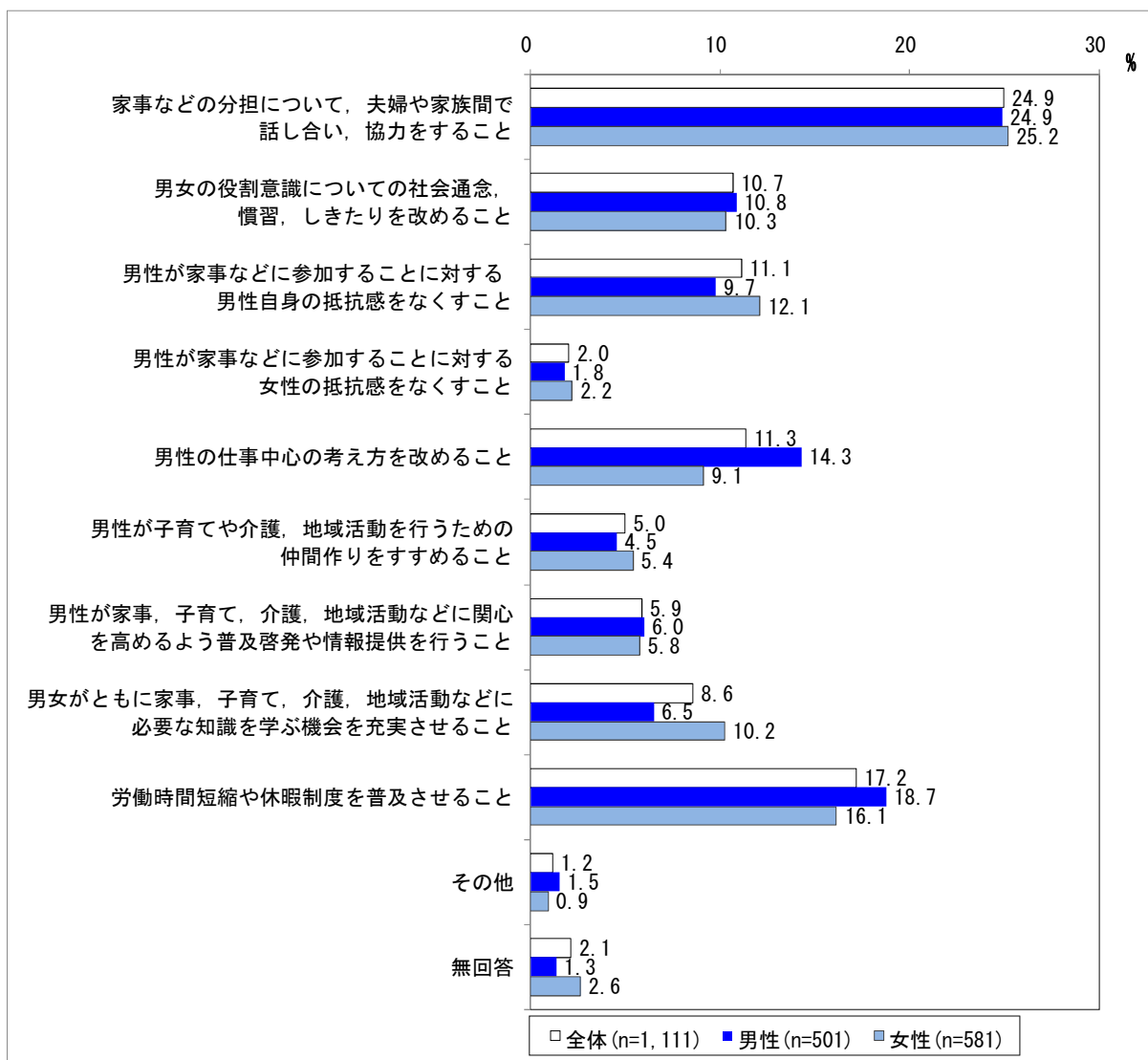


《理想》では，男性は『家庭生活』又は『地域・個人の生活』と『仕事』を両立したい（30.7%），女性は『仕事』にも携わりつつ，『家庭生活』又は『地域・個人の生活』を優先したい（29.6%）が最も高くなっている。

一方，《現実》では，男性は『家庭生活』又は『地域・個人の生活』にも携わりつつ，『仕事』を優先している（40.3%），女性は『家庭生活』又は『地域・個人の生活』に専念している（28.1%）が最も高くなっており，『家庭生活』又は『地域・個人の生活』と『仕事』を両立している（男性：11.4%，女性：16.4%）は，わずか1割強となっている。

また，男性で『仕事』に専念しているが約2割（18.2%）となっている。

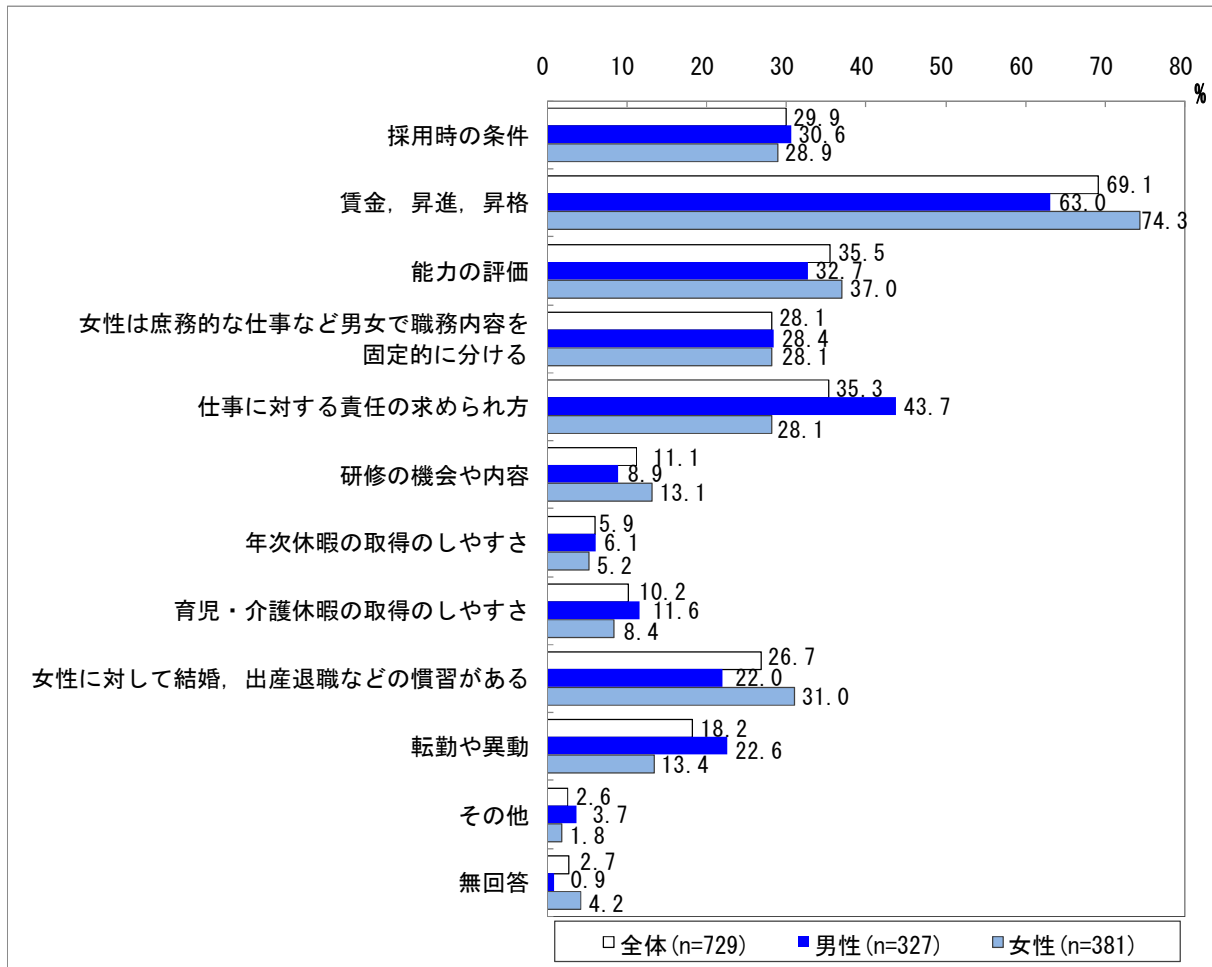
## ●男性が家事，子育て等に参加するために必要なこと



男性が家事，子育て等に参加するために必要なことについては，男女共に「家事などの分担について，夫婦や家族間で話し合い，協力すること」（男性：24.9%，女性：25.2%）が最も高く，次いで「労働時間短縮や休暇制度を普及させること」（男性：18.7%，女性：16.1%）となっている。

## 4 就業

### ●職場での男女の地位

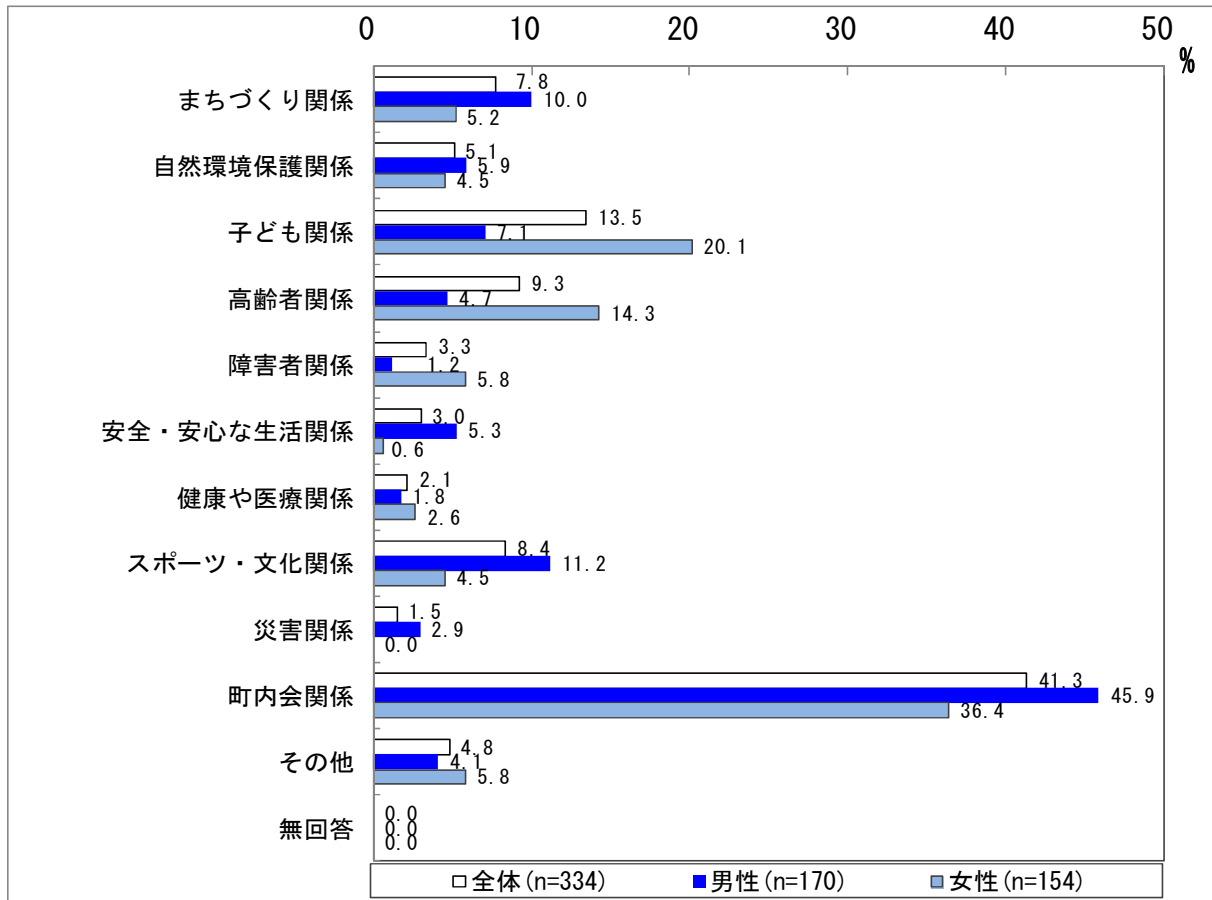


職場で男女の地位が平等ではないと思う内容については、男女共に「賃金，昇進，昇格」が最も高く、男性で63.0%，女性で74.3%となっている。

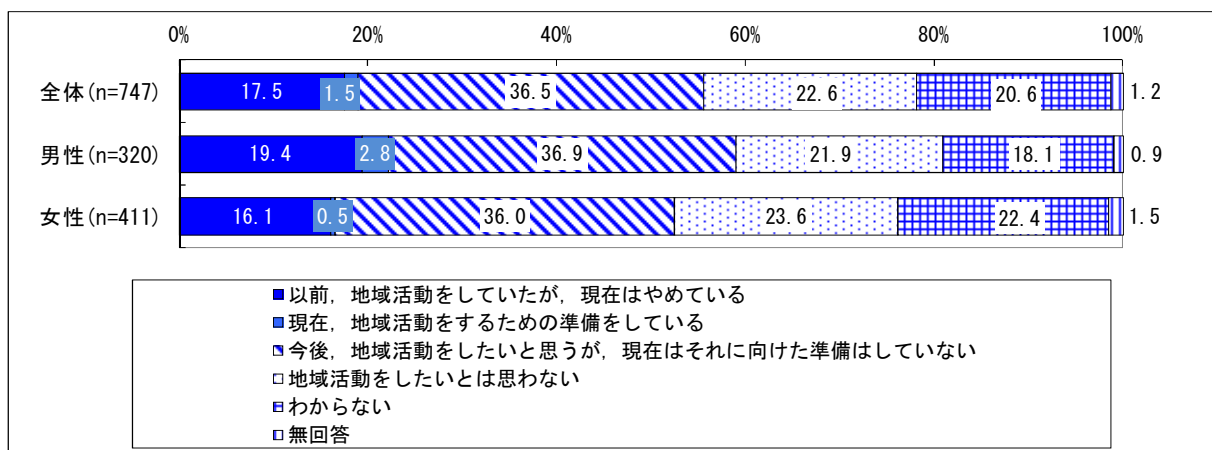
また、「仕事に対する責任の求められ方」は、男性（43.7%）が女性（28.1%）を15.6ポイント上回っている。「女性に対して結婚，出産退職などの慣習がある」は、女性（31.0%）が男性（22.0%）を9ポイント上回っている。

## 5 地域活動

### ●地域活動の内容



### ●地域活動を行うことについて

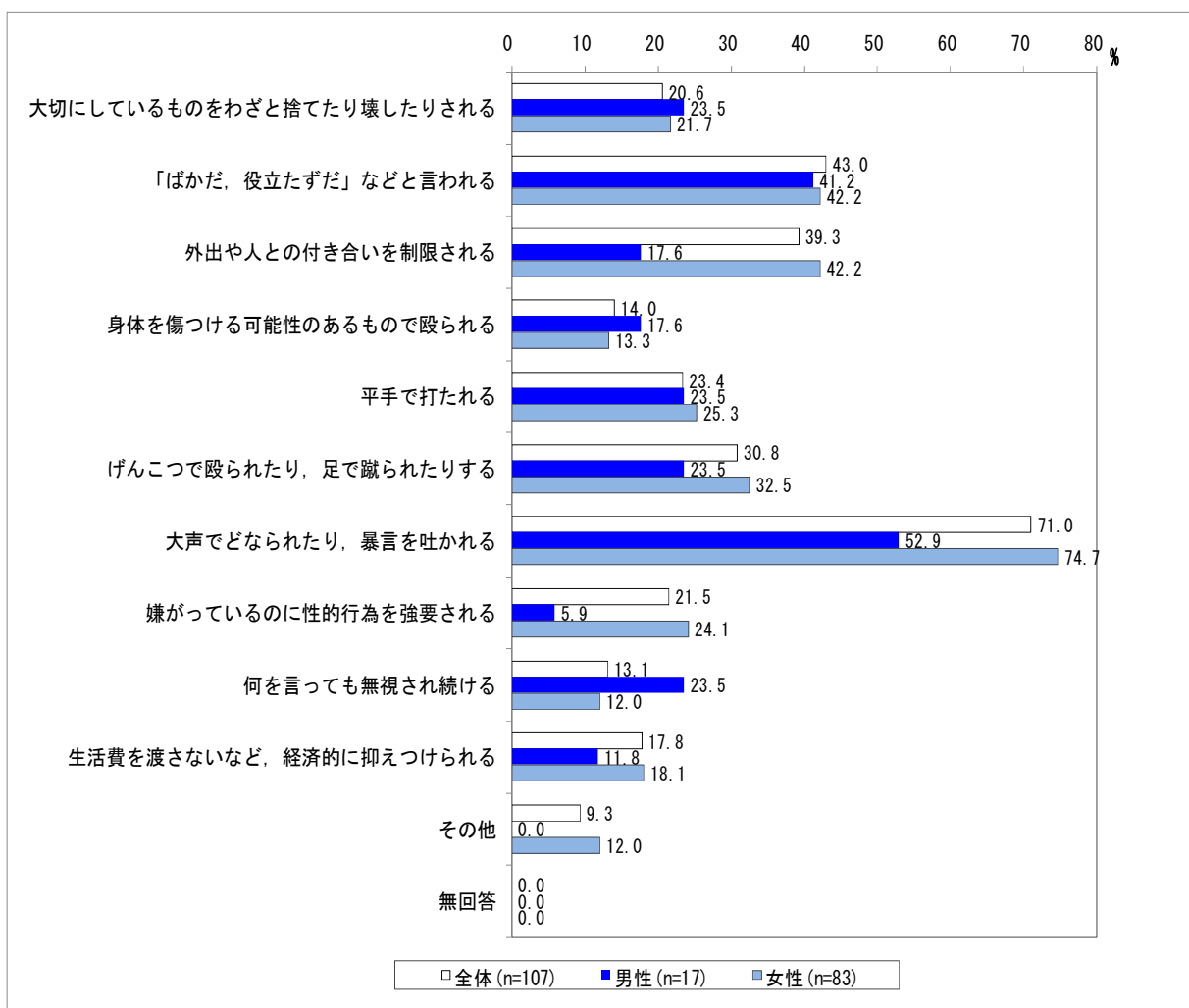
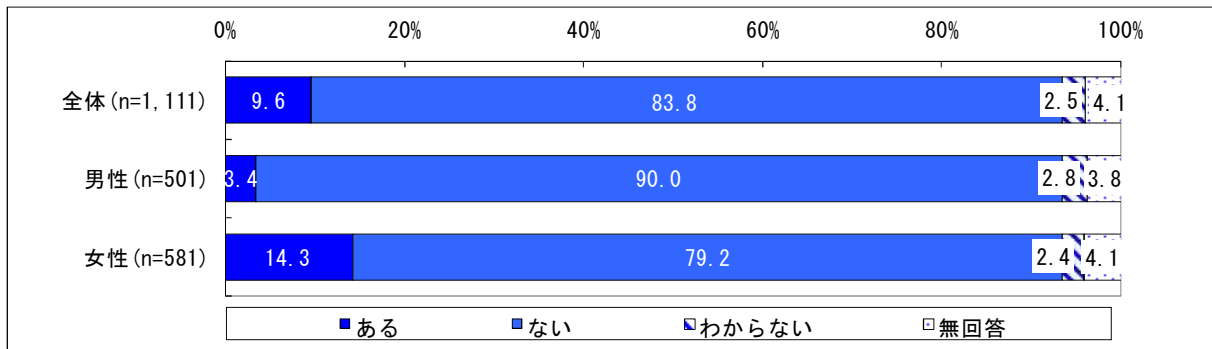


現在、地域活動をしているかについては、「している」が3割（30.1%）となっている。活動している内容については、男女共に「町内会関係」が4割（男性：45.9%、女性：36.4%）と最も高くなっている。「子ども関係」では、女性（20.1%）が男性（7.1%）を13ポイント上回っている。

今後、地域活動をすることについては、全体で「今後、地域活動をしたいと思うが、現在はそれに向けた準備はしていない」が約4割（36.5%）、次に「地域活動をしたいとは思わない」（22.6%）、「わからない」（20.6%）となっている。

## 6 ドメスティック・バイオレンス

### ● ドメスティック・バイオレンスの経験

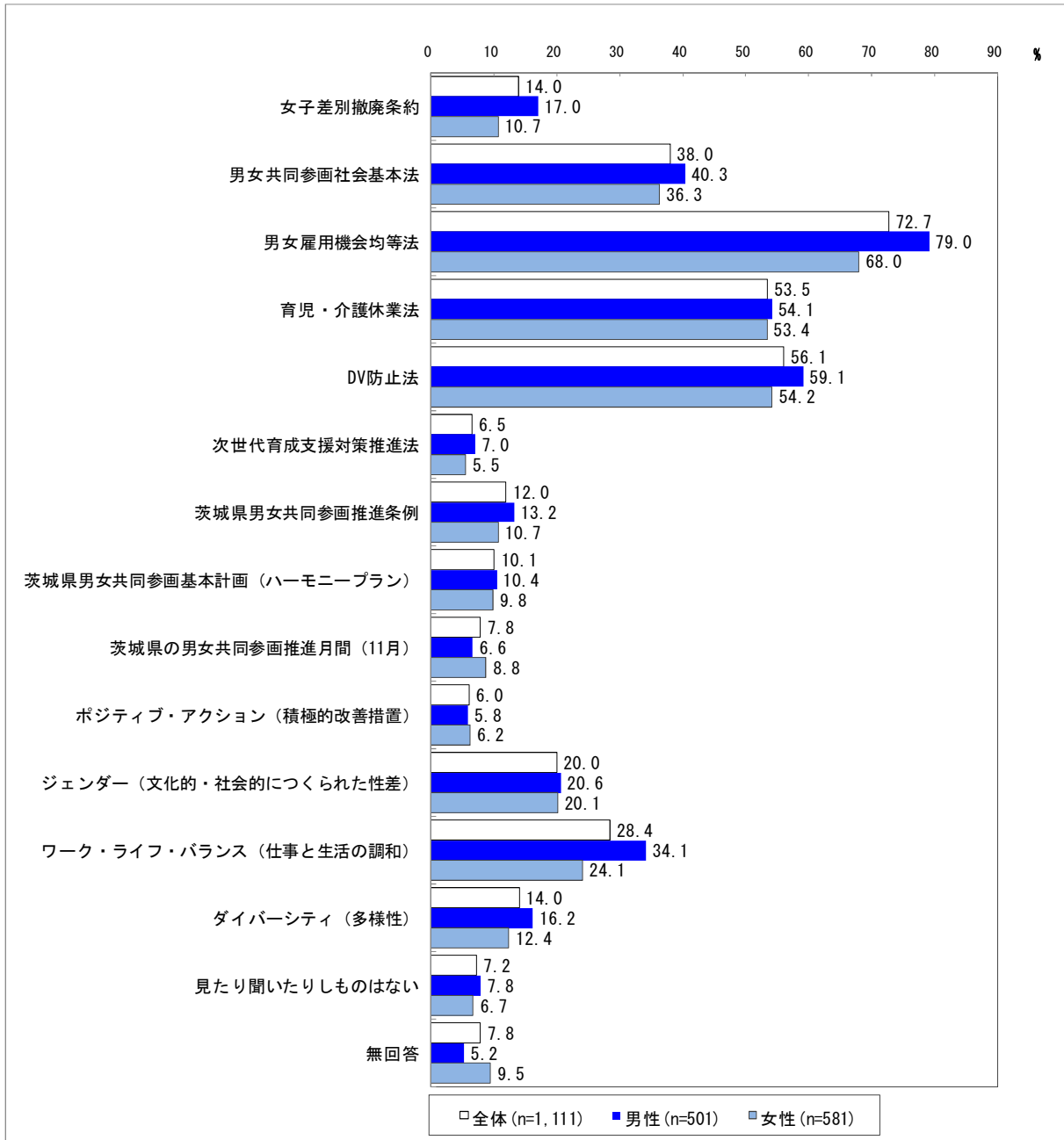


配偶者や恋人から暴力を受けた経験については、全体では「ある」が9.6%となっており、性別にみると、男性で3.4%、女性で14.3%と女性が男性より10.9ポイント高くなっている。

暴力の内容については、男女共に「大声でどなられたり、暴言を吐かれる」（男性：52.9%、女性：74.7%）が最も高く、次いで『ばかだ、役立たずだ』などと言われる」（男性：41.2%、女性：42.2%）となっている。また「外出や人との付き合いを制限される」（男性：17.6%、女性：42.2%）や「げんこつで殴られたり、足でけられたりする」（男性：23.5%、女性：32.5%）などとなっており、男性と女性で暴力の内容に差があることがわかる。

## 7 男女共同参画社会

### ●男女共同参画に関する用語等の周知度



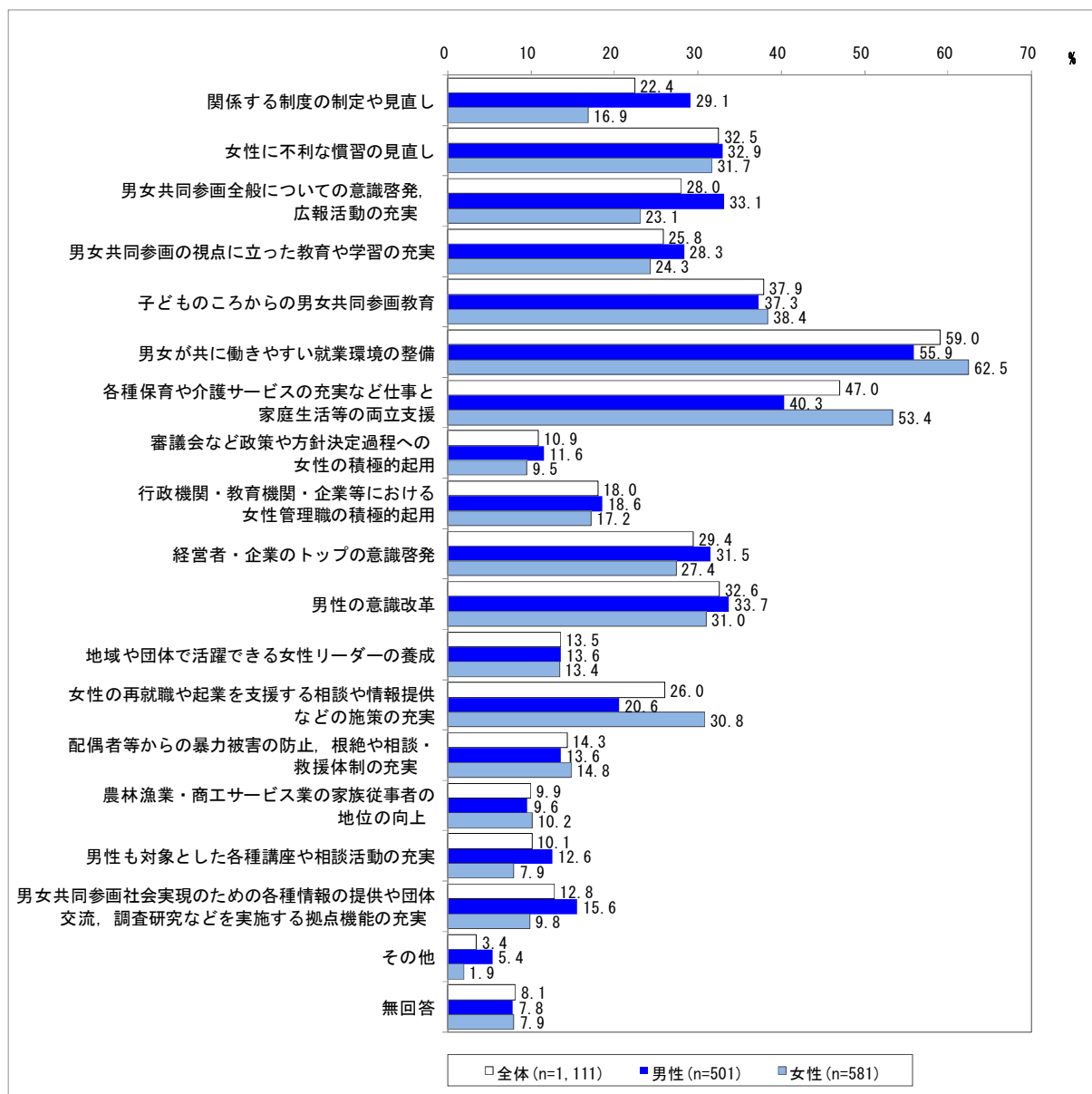
男女共同参画に関する用語等の周知度については、男女差はほとんどない。

男女共同参画に関する用語等で周知度が高いものについては、「男女雇用機会均等法」が約7割（72.7%）、「DV防止法」（56.1%）、「育児・介護休業法」（53.5%）で5割、「男女共同参画社会基本法」で3割（38.0%）を超えている。

周知度が低いものは、「次世代育成支援対策推進法」（6.5%）、「茨城県男女共同参画基本計画（ハーモニープラン）」（10.1%）、「茨城県の男女共同参画推進月間（11月）」（7.8%）、「ポジティブ・アクション（積極的改善措置）」（6.0%）となっている。

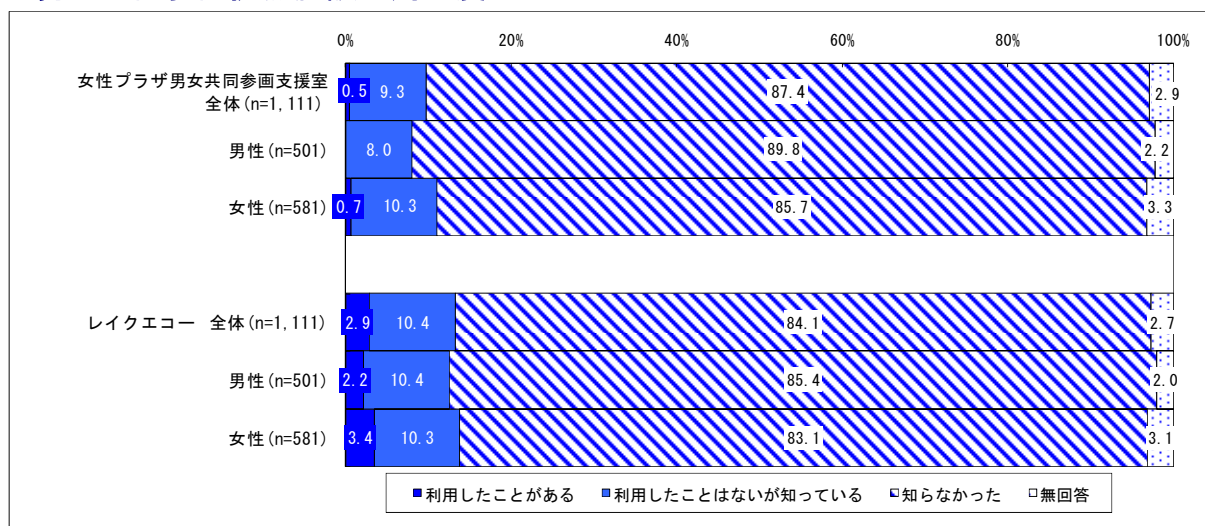


## ●男女共同参画社会の実現に当たって行政に要望すること

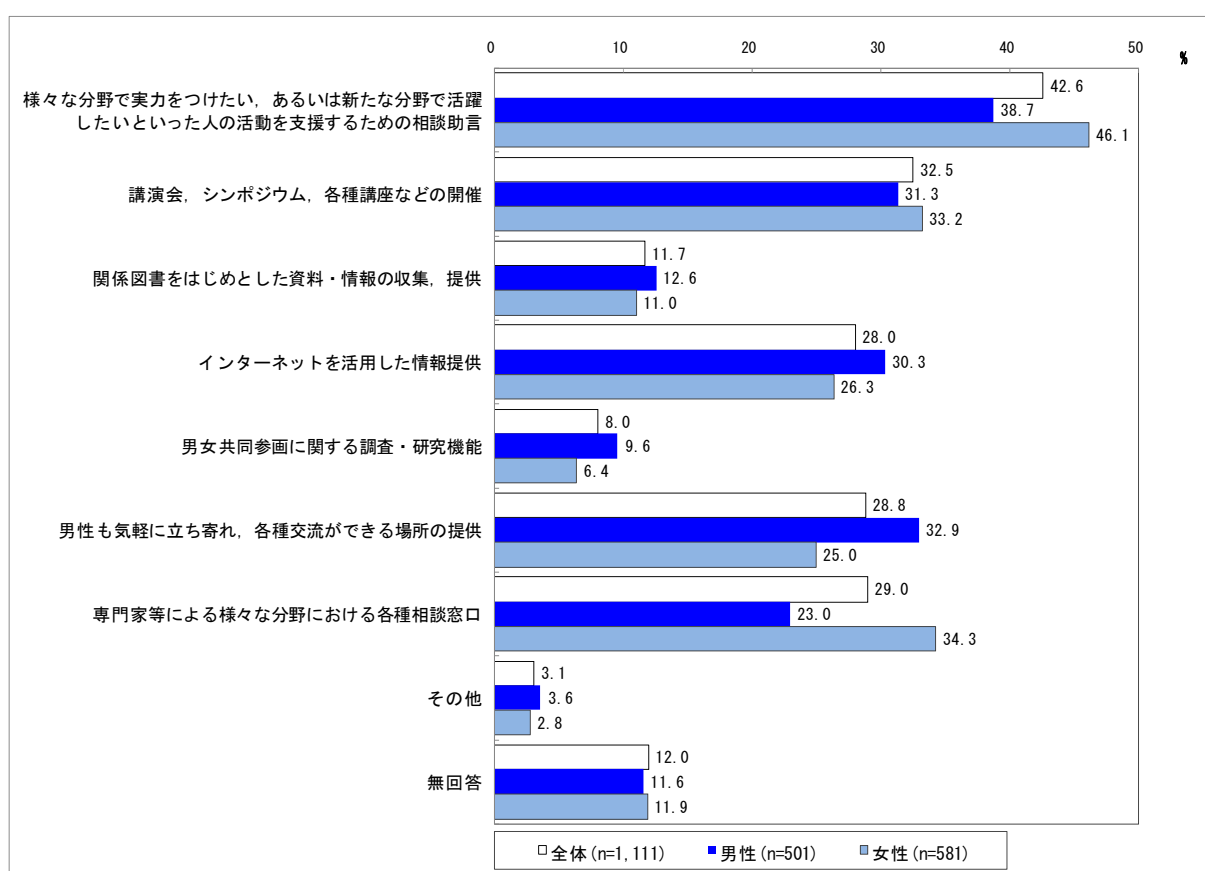


男女共同参画社会の実現に当たって行政に要望することは、男女とも「男女が共に働きやすい就業環境の整備」（男性：55.9%，女性：62.5%）が最も高くなっている。次いで女性が多いのは、「各種保育や介護サービスの充実など仕事と家庭生活等の両立支援」で、女性（53.4%）が男性（40.3%）を13.1ポイント上回っている。

## ●男女共同参画拠点施設の周知度



## ●男女共同参画拠点施設の役割として期待すること



女性プラザ男女共同参画支援室（87.4%）、レイクエコー（84.1%）とも、8割以上が「知らなかった」と回答している。

男女共同参画拠点施設の役割として期待することについては、「様々な分野で実力をつけたい、あるいは新たな分野で活躍したいといった人の活動を支援するための相談助言」が42.6%と最も高く、次いで「講演会、シンポジウム、各種講座などの開催」が32.5%となっている。

性別にみると、「男性も気軽に立ち寄れ、各種交流ができる場所の提供」で男性（32.9%）が女性（25.0%）を7.9ポイント上回っている。また、「専門家等による様々な分野における各種相談窓口」で女性（34.3%）が男性（23.0%）を11.3ポイント上回っている。

